

カトリック山形教会報 かすみ

カトリック山形教会報

6

2011.6.26

カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



羽陽短大サークル「あしなみ」による創作ダンス。



第25回 みこころ祭 6月4日(日) 開催

震災の影響で規模を縮小しての開催となりましたが、山形教会からもたくさんの方がボランティアとして参加しました。そのなかで、みこころ祭のボランティアを初めて体験したお二人に感想を寄せていただきました。

みこころ祭での出来事 イグナチオ 中村 遼

みこころ祭の日、わたしはある青年と出会いました。歳はわたしと同じか少し下だと思います。自分も子供のころ親に連れられて教会に通っていたが、成長してからはずっと教会から離れている、とのことでした。

彼はわたしと会話する中で、「あなたはどのようにして教会に通っているのか」「どうして信者なのか」という疑問をわたしに投げかけたかったようでした。そして、具体的に「どうして?」とはっきり聞いてきました。それでその問いにわたしがちゃんと答えられたかという、だめでした。気恥ずかしさを感じてうまく答えられませんでした。

「教会に行く」と慰められるんだとか「信者になって性格的にも落ち着いた」とか当たり障りないことしか言う勇氣がありませんでした。信者としての信仰について証しようとする、どうしても自分の恥ずかしい過去、神の道からそれた罪にまみれた生活を明らかにしなければいけませんから、立ち話で、しかも駐車場案内のボランティア中に気軽に話せることではありませんでした。というのがわたしの

言い訳なんです、自分でこう書いていて、自分の準備の至らなさに恥ずかしい思いがします。

聖パウロが言うように、本当は、いつだって信仰について話す準備ができていなければいけないのに。

わたしは聖母に対してなんと云えばいいんでしょうか。あの青年に、信仰に尋ねさせようとした心の動き、それは聖マリア、あなたがなされたことなのではないでしょうか。

わたしは聖母を退け、あの青年の靈魂を助ける機会をふいにしてしまいました。もっとちゃんと準備しておくべきだった。恥ずかしがらずにすべてを話すべきだったと思います。

聖マリア。あの若者が救われますように。どうかお祈りください。そして次、誰かから信仰について尋ねられたときには、勇氣をもって答えられますように。

『神は確かに存在し、そしてこんなわたしのことを愛してくださっている。今まで生きてきてこんなに平安を感じたことはありません。今とても幸せです』



そば・うどんコーナーにて、左から矢野さん、海峰さん、優麗愛さん、山崎さん

初めてのみこころ祭 みほ 奥 海峰

私は今日、初めてみこころ祭のボランティアをしました。私と優麗愛（ゆりあ）がボランティアをしたところは蕎麦・うどんのコーナー。祭りが始まる前に優麗愛はジュースやアイスを食べていました。私もチョコのアイス一つ優麗愛と食べました。9時20分過ぎに、矢野さんが仕事の内容を優しく教えてくれました。施設担当者の松田さんも優しくいい人でした。その頃、私達は矢野さんが買ってくれたコーヒーを飲んでいました。山崎さんは「後から疲れるから甘い飲んでおきな」と言ってくれましたが、私たちには「苦い!」としか味が残りませんでした。私と優麗愛と山崎さんは矢野さんにすすめられてテーブルカットを中庭の方で見た後、祭りがスタートしました。最初の頃はまだお客様が来なくて「つまない」と言ったら、仁義（のぶよし）が「だんご屋は売れてるよ」と話してきたので「分かったよ」と言って帰りました。お店には人が来なくてダラーンしていると、優麗愛が「ダラダラしてるのがダメなんだよ、シャキ!っとしなきゃ」と真面目になったので、私もシャキっと背筋を伸ばした。でも、お客様が来なくて仁義の方を見ると大変忙しそうでした。10時50分頃に三人の家族が来て矢野さんに「やってみる?」と聞かれたので「はい」と言った後、3番テーブルに行き、食券をもらい、厨房の人に「うどん一つに蕎麦一つください」と大声で言ったので少し恥ずかしかったけど少しずつ慣れてきました。その頃にはテキパキと優麗愛の方も仕事が出来ようになっていきました。11時頃には、お客様がたくさん来て大忙しで、運んでも運んでも次から次に注文が入って、きりがありませんでした。昼頃には20人ぐらいのお客様で大賑わいで、矢野さんも山崎さんも忙しそうだったので、私と優麗愛も頑張ってお手伝いしました。時々、私がお客様の

ズボンに水を少しこぼしたり、間違っとうどんが二つ余ってしまうハプニングがありましたが、うどんの方は母ちゃん達に渡したけど、母ちゃんが「母ちゃん達は焼きそば食べて腹いっぱいだぞ」と言ってたけど全部食べてくれました。アトラクションも終わりに近づくにつれ、人もだんだん少なくなって落ち着いた頃に優麗愛が「かき氷食べたあーい」と言っていました。私は「まだ食うの?」と聞いたら「なんか悪い!」と返事が来たので「悪くないけど玲太（りょうた）に聞けば? あっ玲太いるよ、玲太あー」。「スルーしたね」。「だね。完全スルーだよ。あいつ」と話をしていました。1時25分には人が4人しかいなく休憩で鈴（りん）と来夢（らいむ）と真凜（まりん）と一緒に玲太を捜しに子供天国の方に行くと、琴音（ことね）ちゃんとお母さんがいたので玲太のことを聞くと、「さっき帰ったよ」と言われたので、私は戻って店のテーブルを拭いていると優麗愛が、イチゴ味のかき氷の上にアイス（バニラ味）を乗せたのを食べていました。母ちゃんは「優麗愛また食べて仕事サボってるな」と言ったので「うん」と答えました。私がテーブルを拭き終わる頃には祭りが終わり、後片づけをして休んでいると玲太が「俺の店、合わせて99個売れた」と言ったので、私は「何を言ってるの? こっちなんて、うどん50食売れて、蕎麦は91食も売れて、合計141食も売れたんだよー」と自慢したけど無視されました。だけど飯島さんがた焼きをくれたので美味しかったべました。終わった後にはクタクタに疲れてたけど、楽しく過ごせて良かったです。来年は私は高校生でバイトなどで忙しいかもしれませんが、またボランティアが出来たら、もう一度したいと思います。



(左) 津波により壊滅状態になった市街地。(上) 高台に建っていたことで津波の被害を受けなかったカトリック石巻教会。物資配給の拠点となっている。

震災後、山形教会にもたくさんの支援物資が運び込まれました。山積みになった物資の仕分け作業、被災地への運搬、現場でのボランティア作業などを報告していただきました。

被災地を目の当たりにして

クリストファー 大宮正美

今年の3月11日(金)午後2時46分、震度5弱の揺れを私は天童市で体験しました。地震の揺れが長く感じられ、もっと大きな揺れとなって襲って来るのではないかと、不安と恐怖に陥りました。

携帯電話は使用出来ない状況でしたので、私のエリア内にある県営、市営住宅のガス配管設備に異状ないかどうか点検し山形に戻り、会社に状況報告を致しました。そして帰宅。電気復旧はならず、まだ寒い山形では暖房なしではいられないので、物置より石油ストーブを取り出し、灯油を入れ暖を取り、ローソクの明かりで食事を取りました。

余震が続く中、ラジオより流れる情報を聞けば、震源は宮城県沖、マグニチュード8.8(後に9.0に訂正)と言う、巨大な地震また津波とのこと。範囲が東日本全域におよぶ災害となっており、被害状況が明らかになるにつれ、自然の猛威にただただなすすべなく、4m防潮堤の高さの倍以上の津波、場所によっては、10~20mの高さとなって沿岸部を襲い甚大な被害となっておりました。

朝夕が氷点下となる被災地で、多くの方々が津波に吞まれ濡れている人や家屋、会社、自家用車が流され、家族もバラバラになり、それぞれが着の身着のまま避難所へ向かったことと思います。

又、避難所でも、断水、停電と暖房もない一夜を過ごし、家族の安否を捜し求め回ったことでしょう。被災状況が明らかになるにつれ、未曾有の災害に対し全国的な支援、義援金の動きと「がんばろう東北」支援物資やボランティアがしたいとの声とともに、被災地の方々に元気と立ち直る勇気を届けるための力を与えるメッセージがテレビから放映されたり、ラジオより流され始めました。

カリタスジャパンから被災地へ向かうカリタス職員より本

間神父に電話があり、私に「プロパンガスとコンロを用意出来ないか」と連絡が入りました。早速、10kgのガス容器3本、コンロ4台を調達。次の日、被災地の石巻教会のニーズに応え、「お湯出しサービス」のため、食料、衣類他とともに一緒に持参いたしました。

被災地へ近く、被害の無かった山形教会の本間神父に、新潟教区菊地功司教から「現地のニーズに応じて下さい」との要請がありました。

主日ミサの説教のときに、被災された方を受け入れること、支援物資要請、新庄教会に8名のフィリピン人受け入れを決めた報告がありました。ヨハネ館に集まった衣類、食料を仕分け分類し、数名で今必要とされる物を段ボール箱に入れ直し、すぐにも送れるように整理しました。

全国からの支援、ボランティア申し込みの中、本間神父が、石巻教会近くの避難所になっている門脇中学校で「お湯出しサービス」が好評であると聞き、その後3度、ガス容器の交換のため訪問しました。食事時、テントではお湯をポットにもらうため行列が出来たそうです。みそ汁、コーヒー、カップ麺等をいただくのにはお湯が必要ですから。

3度のボンベ交換後、高台にある石巻教会から東へ(海寄りへ少し行く)行って見ると、ガレキの山、津波で町全体が流された状況とその威力、すさまじい津波のエネルギーを見せつけられました。

震災から3ヶ月、支援、義援金が全国から集まり、労力奉仕のボランティアと、南三陸の被災地の復興の助けとなって一步一步、立ち直りに向けてあゆみだした被災地へ、主の祈りとともに助け合い、「がんばろう東北」の合言葉で、この難局に全共同体が力を合わせ立ち向かいましょう。



写真提供／深川博暉(浜松カトリック教会 司牧センター)

ボランティアに参加して

ガブリエラ 小林朗子

5月23日～5月25日、カトリック塩竈教会ベースにボランティア参加しました。このようなボランティア参加は初めてで、二年前、教会でカリタスの海外ボランティア派遣の説明会があり、そちらは残念ながら参加できませんでしたが、そんな事も思い出しながら、今回参加しました。このような大惨事の中で、私たちが無事でいられた事に感謝しつつ、何かお手伝いできる事はないかと思い、また、家事介護の延長と考え、出かけました。菊地司教のブログでの参加呼び掛けもあり、ちょっと迷いましたが、ボランティアの申込みをしました。

元寺小路教会のボランティアセンターに立ち寄ってから塩竈教会へ向かいましたが、到着が14時過ぎになり、初日は作業をせず、次の日から活動しました。ボランティアセンタースタッフが常駐しており、シスター達が食事のお世話をして下さいました。塩竈ベースの様子がカリタスボランティアブログに載っていますので、ご覧ください。

教会は改装工事中で壁塗りの途中でした。宿泊場所を他に確保して参加される方もいました。昨年の夏、司祭館の壁天井掃除のお手伝いの際に、九州からも女性二名が、雪かきボランティアの下見で山形に来られ、ご一緒したのですが、彼女達はカリタス海外ボランティアにも参加していて、私の知人の叙階式でもお見かけした方達で、九州での青年のグループ活動を楽しくお話してくれました。重曹とお酢を使ったお掃除法を、中川神父に伝授されていました。

※「塩竈」関わる表記は、各機関・施設により「鹽竈」「塩竈」と書き分けられますが、ここでは原稿どおりの表記とさせていただきます。

塩竈は親戚が以前住んでいた場所でした。状況はテレビで報道されているとおりで、海岸沿いの家の中は吹き飛ばされ、最近の新しい家はダンボール箱のようにひっくり返っていました。位牌、写真の洗い出しをしている方々や、掃き出し、私は個人宅の片付けの手伝い担当でした。浸水で放置された畳の運び出し、拭き掃除、屋外のゴミの分類等。老夫婦のお住まいでお話を伺いながら作業をしましたが、家族それぞれの生活を送る中でのすれ違いが、垣間見られた気がします。短時間作業ですが、屋外での作業で歩きもあり、少し疲れました。でも、松島の静かな海が美しく、とても癒されました。夕食後の分かち合いは、日々人員が変わるため自己紹介が中心となり、グループリーダーが作業の状況と注意点を説明していました。就寝は二部屋に分かれ、女性は工事中の聖堂に布団を敷いて寝ました。

二泊三日の活動を終え、釜石ベースから本間神父とシスターが塩竈教会に立ち寄ってくださり、仙台サポートセンターに立ち寄り、カリタスの職員の方と合流しました。

危険を伴うボランティア活動ですが、震災から時間が経ってからの参加でしたので、無理のない活動内容でした。夏休みの学生ボランティアの申し込みも数多いようですので、これからまだまだ時間のかかる復興支援の手助けとして、今後も沢山の方々に参加していただきたいと思いました。今回ご一緒させていただきました方々に感謝しております。

今、私にできる支援

マリア 飯島千賀子

3月11日の震災から3ヶ月たちました。始めは必死に支援に協力していました。しかし、この頃は息切れ状態です。でも、まだまだ支援は必要です。私は現地に行って活動は出来ません。では、何が出来るかと考えた時、神父様が「祈りで支えることができますよ」と説教でお話してくださいました。祈りはこうあるべきと思って祈り始めましたが、長続きしません。でも、祈りたい。毎日、祈れる時「なくなった方に永遠

の安らぎを、被災にあった方には立ちあがる力を与えて下さい。」等の短い祈りを始めました。また、支援金も必要と思いますが、沢山は出来ません。そこで一日10円を祈りの後に支援金箱を造り入れるようにしました。

これが私に出来る「がんばらない、あきらめない」支援です。